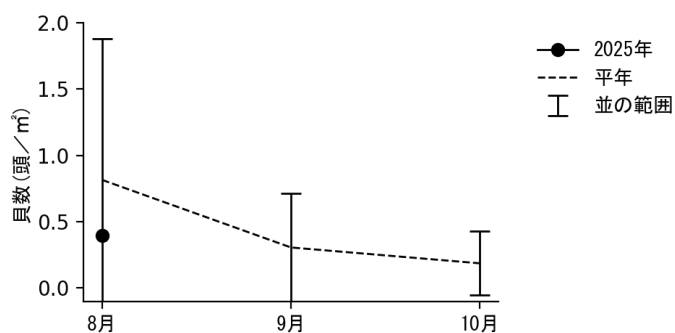


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
調査結果	8 月の発生量（平年比） 並		
予報	8 月からの増減傾向 ↓		
	9 月の発生量（平年比） 並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

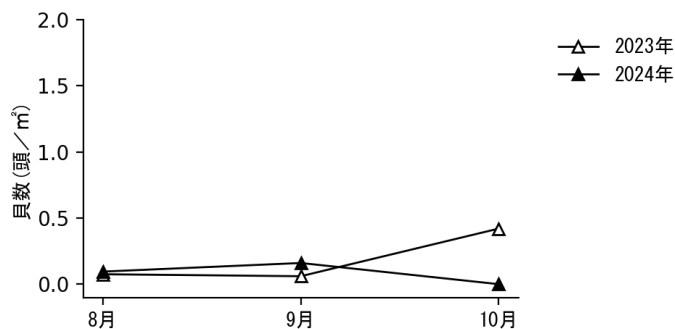
調査結果

貝数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率87.5%（平年：61.4%）

防除のポイント

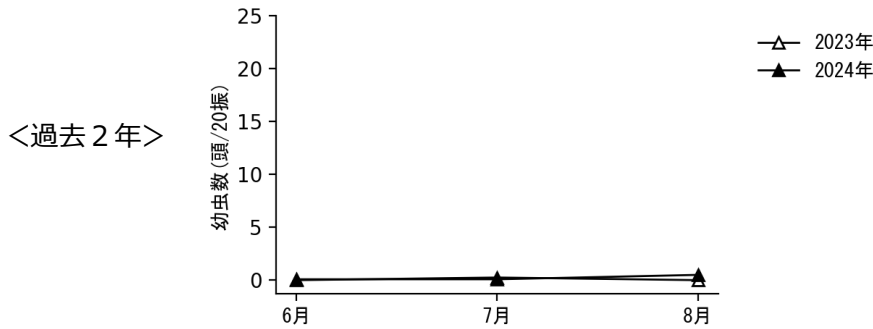
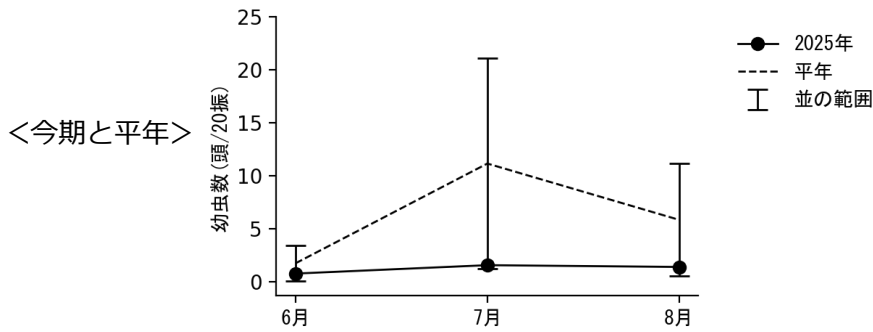
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・取水口に侵入防止網等（目合9mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・本田での被害が集中する移植後2～3週間は浅水管理（1cm以下）に努めるとともに、登録農薬を施用する。
- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋や tong 等を使用し、素手で触らない。



作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	バッタ類		 台湾ハネナガイナゴ	
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	—		
	9 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

幼虫数の推移



- ・発生種：台湾ハネナガイナゴ
- ・発生ほ場率41.7%（平年：68.8%）

防除のポイント

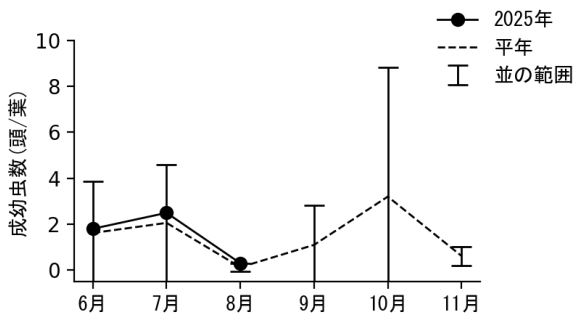
- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。



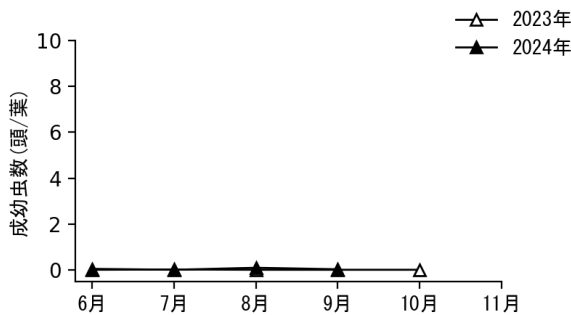
作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

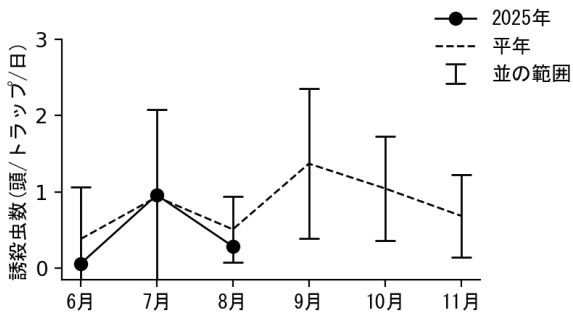
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



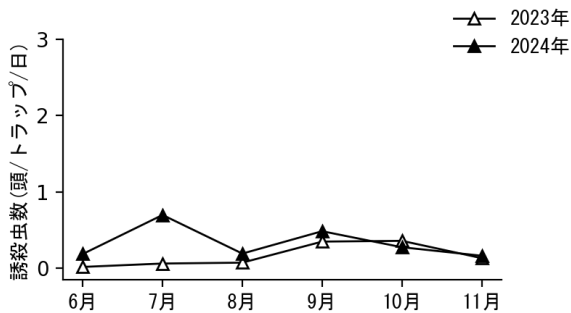
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率40.0%（平年：40.0%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

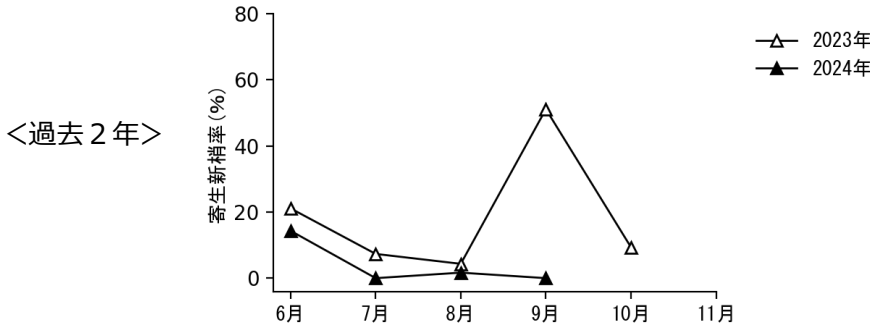
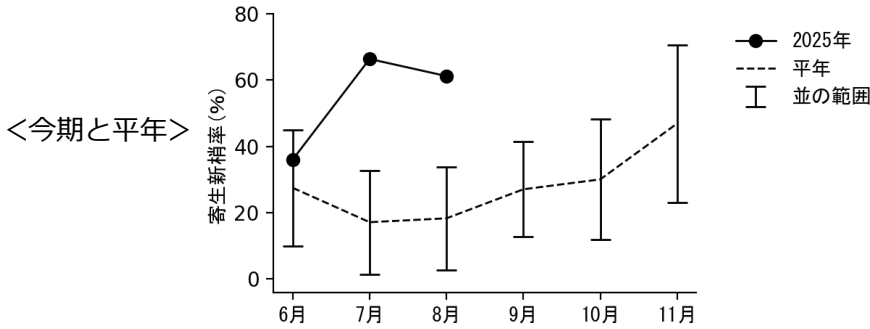


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	多		
予報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率100%（平年：48.9%）

防除のポイント

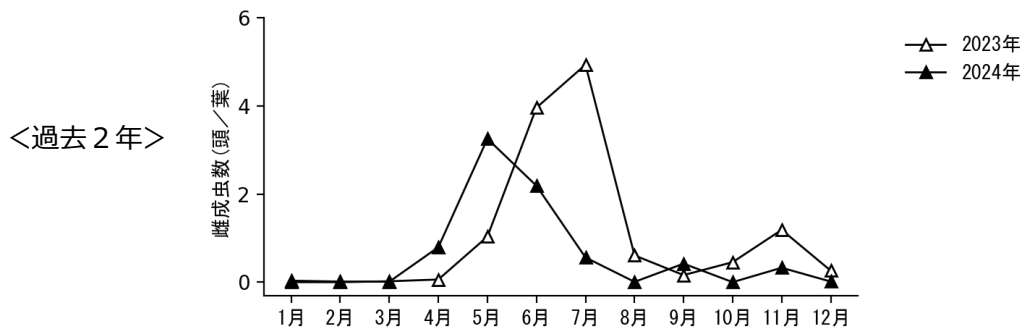
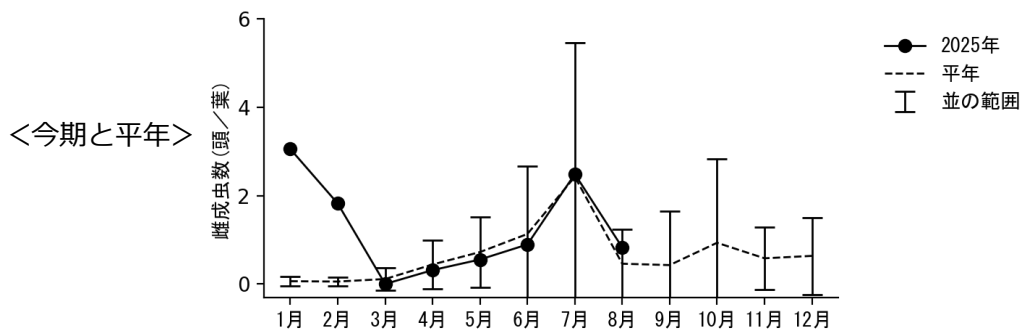
- ・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察して、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等に感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。



作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率80.0%（平年：36.4%）

防除のポイント

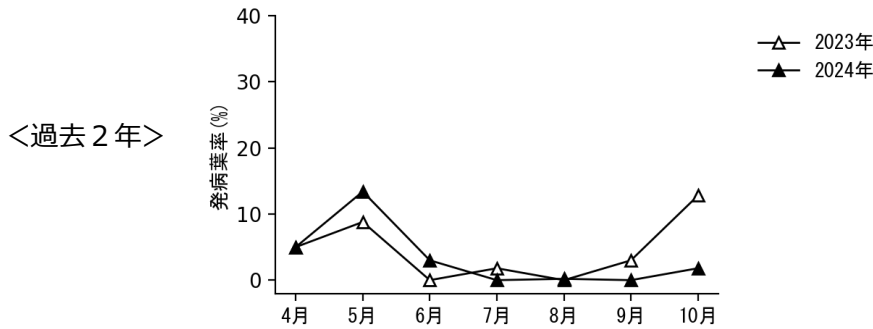
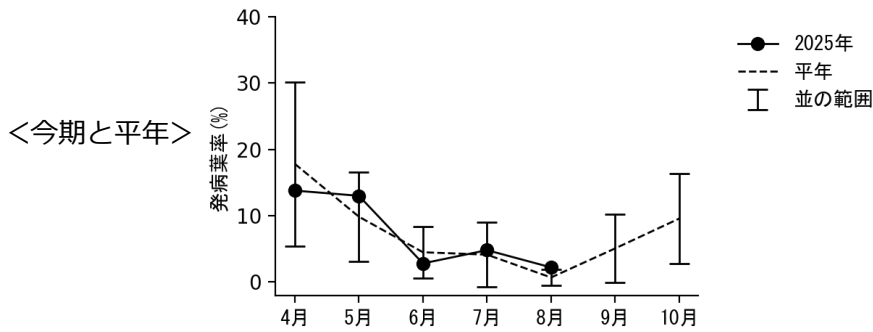
- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時に発生が多くみられた施設では多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：12.5%）

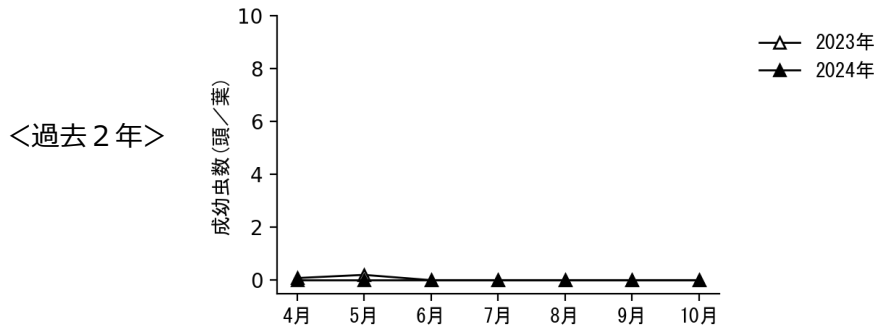
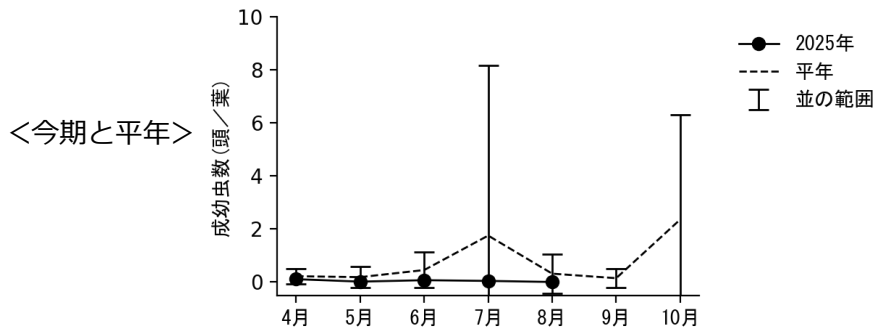
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	アブラムシ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率0%（平年：27.5%）

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

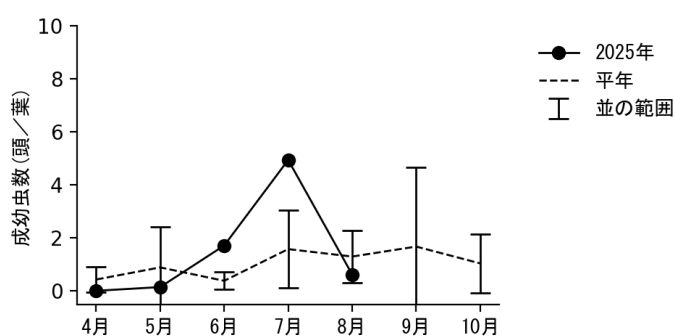


成虫

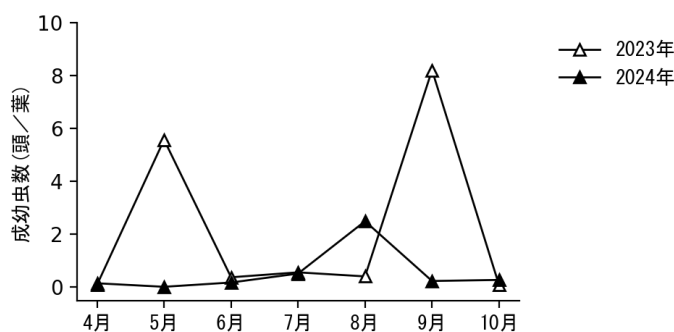
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率100%（平年：92.5%）

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

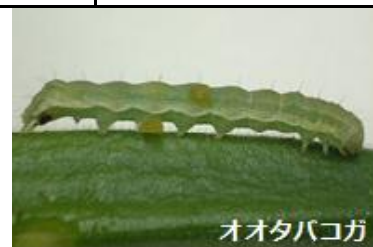


幼虫



被害葉

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

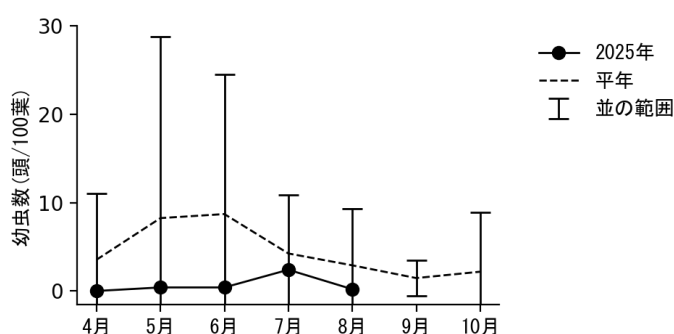


オオタバコガ

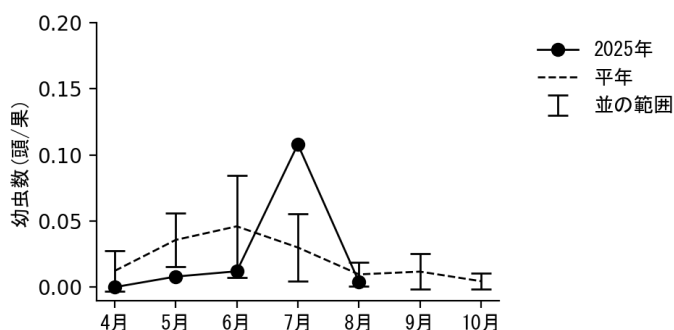
調査結果

幼虫数の推移

<葉>



<果実>



- ・発生種：オオタバコガ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：15.0%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



クサオビリンガ



ハスモンヨトウ



ワタノメイガ



ワタアカリバ



タイワンキドクガ



フタガリコヤガ